

『知行合一』



株式会社中電工 山口統括支社

支社長

おかざき せいじ
岡崎 誠次

山口商工会議所2号議員・常議員

1952年生まれ。島根県益田市出身。高校卒業までを島根県で過ごし、卒業後、(株)中電工に就職。今年、勤続42年目を迎える。平成27年から山口統括支社の支社長に就任し、現在に至る。趣味は畑と機械いじり。最近では、実家で見つけた蓄音機を解体し、整備している。

〔企業概要〕

(株)中電工山口統括支社

住 所：山口市大内御堀黒坊上1316-1

TEL：083-925-1960

従業員数：114名

岡崎支社長のプロフィールを教えてください。

島根県益田市出身で、高校を卒業するまで島根県で過ごしました。益田と山口は距離的にも近く、私の母は山口県出身なので、山口市への馴染みは昔からありました。

高校卒業後、(株)中電工に入社し、最初の赴任地は徳山営業所(現在は山口東部支社)でした。徳山に2年間勤務した後、山口に2年、萩に2年、その後徳山営業所に戻って29年間勤務しました。当時、地元での採用・勤務が多かったのですが、私は出身地である島根県では一度も勤務したことがなく、ずっと山口県内を異動して、今に至ります。

私は元々技術職で採用され、現場勤務でしたので、屋内の配線工事や、空調管工事、図面作成などを中心に、工程管理業務や調整などを行っていました。

ホテルやホール、病院など様々な現場を経験しましたが、私が携わったところでは、徳山中央病院やスターピアくだまつがあります。中でも病院の乳児室の工事には特に緊張した記憶があります。電源が落ちて、もしも機材が停まってしまったらどうしよう、子どもの命に関わる…。他にも、山口放送本社ビルなどの工事にも携わらせていただきました。放送設備に関する配線も色々あって面白かったですね。やはり音に関して厳しい部分があり、プロ意識の高さを感じた記憶があります。現場では様々な経験をさせていただきました。

「知行合一」をスローガンにしておられますね。

吉田松陰が松下村塾で掲げていた、有名な言葉です。「知っているならば、実践しなさい。実践しないのは、知らないのと同じ。」という意味です。私

自身、仕事の面でも私生活の面でも、知ったら実践する、気がついたらすぐにやる、ということを中心に心がけています。

知ったらやりなさい、知識を得たら出していきなさいと、社員達にも伝えています。ただ、知識を誰かに伝えるためには、自分自身がしっかりと理解していなければならないので、しっかりと勉強して、知識をつけることも大切です。

また、経験で得た知識は後進に積極的に伝えるようにしています。辛かった経験などは心に残さないようにして、悪いイメージは心の中にとどまらせないようにしているのですが、仕事をする中で過去の失敗などを思い出したら、社員達に「昔こういう現場でこういう経験をしたことがある」と伝えて、次に活かしてもらおうようにしています。様々な現場を経験しているのは、私の強みだと思います。



社員のみなさんに配布されているコンプライアンスカード。折りたたむとカード1枚の大きさになり、常に携帯できる形になっています。

社が統括しており、山口統括支社は、山口県西部（下関～防府）の営業所を統括し、従業員は約100名で、管内では約400名です。また、山口県東部（岩国～柳井）は周南市にある山口東部支社が統括しています。

当社は2014年に会社創立70周年を迎え、総合設備エンジニアリング企業として、さらに真心のこもった対応でお客様に満足していただけるよう努めてまいります。

山口市にはどのような印象をお持ちですか？

温泉もあり、文化施設もあり、素晴らしい街だと感じています。しかし、やはり活気不足だと感じる部分もありますね。県内の他市に比べれば、商店街にも人が多く、シャッターが閉まっているお店ばかりという印象もありますが、県庁所在地でもありますし、もう少し活気ある街であって欲しいと思っています。

山口県は、広島や福岡など近隣の他県と比べると、ある程度の人口規模の市町が分散していて、まとまりがないように思います。それぞれ魅力ある良い街なので、一極集中にする必要はないのですが、それぞれの強みをより活かすことができれば、より魅力的な街として、全国に発信していけるのではないのでしょうか。

（株）中電工について教えてください。

当社は、戸建住宅から病院や大規模なホール、ビルの電気・空調設備工事を中心に、インターネット配線などの情報通信設備工事、ライフラインの一端を担う配電線工事まで、様々な設備に関する工事を行う総合設備エンジニアリング企業です。最近では、ビル住宅の快適化（リニューアル・リフォーム）や太陽光発電に関するご相談にも対応しています。

全店で約3,500名の社員がおり、本店は広島市にあります。山口県では、山口統括支社と山口東部支社の2支

イメージマークにはどのような意味があるのでしょうか？



1990年、それまでの社名であった「中国電気工事(株)」を「(株)中電工」と新しく、新社名の「中」を基本イメージ化として、将来の発展を目指していく様を「CHUDENKO」の「C」と「Challenge」の「C」を組み合わせでデザイン化したものです。それぞれの色にも意味があり、ブルーは空・海・宇宙への無限の広がりや未来に向かう姿を、オレンジで真心・情熱を、緑で安全・技術・環境・地球を表現しています。我々は「真心」を社是として掲げており、常に正直でわだかまりのない心で、お客様に信頼される企業を目指しています。

私個人としては、「C」という文字には「Change」や「Communication」など、これから未来に向けた目標も含まれていると思っています。現代社会で徐々に減っているコミュニケーションを、社員同士でも、会社と地域でも積極的に持

つようにしていきたいですし、これから未来に向けて、ますます変わり続けて行かなければならないと考えています。

（株）中電工で新たな取り組みを始めたといいました。

2015年11月に(有)ワールドファームとの合弁会社として設立した(株)中電工ワールドファームは、農業の担い手育成、耕作放棄地の拡大阻止、中山間地域の活性化や、政府方針でもある「強い農林水産業」を目指して事業を展開しています。

我々のもつ技術を農業にも活かし、地域活性化の一助になれば幸いです。

また、2015年10月、新キャッチコピーとして「明日を、こうしよう。中電工」を設定しました。「こうしよう」は漠然とした言い方ですが、何かに限定していない「無限の可能性」を持つ言い方です。お客様一人ひとりの未来をより良いものにするために、当社は確かな技術・知識・プランを持って暮らしに関わり、寄り添い、変えていくというメッセージが込められています。併せて、「こうじろう」という新しいキャラクターが誕生しました。「こうじろう」は中電工のコーポレートカラーをした犬のコーギーのキャラクターです。みなさまから親しみやすいイメージを持っていただくため、このようなキャラクターができました。

これから未来へ、様々なことにチャレンジしながら、みなさまのお役に立つ中電工として、頑張っていきたいと思っております。

明日を、こうしよう。
中電工

